



1 自然と調和した親水性の公園。2 木板が敷き詰められたステージ。3 遊歩道は、草で覆われないように広めの幅です。4 5 上野焼陶片を利用した手作り距離標。6 カヌー乗り場はサケの稚魚放流にも活用されます。7 彦山川の模型を提案を検討する発足当時のメンバー（平成18年4月）。



Pickup Topics



明治期に彦山川を往来した石炭運搬船「川ひらた」を描いたレリーフを囲む生徒たち。横4.5m、縦1.5mの大作は、公園の完成を記念して2日間で制作。5月20日に設置されました。

この事業は、国土交通省の「水辺の楽校プロジェクト」を活用した取り組みで、子どもが川と親しむために、同省彦賀川河川事務所（直方市）によって倉元橋（上野）付近から、彦山川と中元寺川の合流点（金田）付近までが整備されました。概要は赤池中生やひこさんがわらの会など地元住民団体、同事務所などでつくる「子どもの水辺協議会」が、

先進地視察や意見交換などの会議を重ねて作成。市場小付近の水辺に縦6m、横30mの野外ステージを設置や、幅15mのカヌー乗り場、幅5mの遊歩道を設けるなどの子どもたちのアイデアが、4年越しで実現しました。3年生として、協議会の後輩9人をまとめた亀谷一（成くん（赤池）と城野春菜さん（上野）は、「地域や彦賀川河川事務所のかたのおかげで、先輩やわたしたちの夢が実現できるともうれしいです。これからも、身近な環境に関心を持って、ふるさとの川を守っていききたいと思えます。それから、ステージや遊歩道など公園全体を利用したいイベントを考えてぜひ実現したい」とより身近になった川を眺めながら、新たなアイデアをふくらませています。

子どもの水辺協議会が計画を作成した彦山川河川敷整備事業が完成

生徒の夢が水辺で実現



赤池中生徒らによる「子どもの水辺協議会」が平成18年から参画した、彦山川河川敷整備案。子どもたちのアイデアが盛り込まれたこの案に沿った全長約2.5kmの公園が、5月28日に赤池地区の彦山川河川敷に完成しました。

福智の風

▶「締め切り」に追われる毎日でした。それを乗り切るとほっと胸をなで下ろし、またそれに向かって行く。いつもこのくり返しでした▶「締め切り」とは、時には鬼のように自分を追い立てる恐ろしい存在であり、時には早く駆け抜けたいゴールの様に、とても待ち遠しい存在でもありました▶試練や達成感を与えながら、自分を成長させてくれた「締め切り」に、心から感謝です▶広報の「締め切り」とは、今日でお別れ。自分が最後に担当する号の編集を終えました▶広報を通じてお世話になったたくさんの方には、これから新たな分野で恩返しをしていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いします。（昌太郎）

四季の歌

心映の投句

俳句・短歌教室の詠歌紹介

隣保館句会・みのり句会

池田一步選

ユッカ咲き人影まばら無人駅
公園の吾子を見守る日傘かな
牛の鼻代田の風の抜けてをり
薫風の改札口を抜け山へ
父植多し枇杷の色づく頃にはや
燕尾服着こなしてをり夏つばめ
停年の男ばかりの溝浚へ
堀越しの長き話や花蜜柑
遥まで代田となりて宵の風
羅の法衣に換わり阿弥陀経

久松ミサオ
小場 妙子
丸山 鈴子
吉田 弘
宇野八重子
千手 弘子
大久保幸子
森 玲子
小笠原雄子
熊谷カツミ

福智町金田公民館俳句教室

岩井鬼童選

露天湯に夜間飛行の灯涼し
萍や星は定め座に光り
水滴の落ちさうな雲梅雨近し
壁青くふくらみ消ゆる夏の海
糠漬や白磁に染みる茄子の紺
山伏の厳しい修行はとどぎす
SLの子らの歓声若葉風
乳を呑むむたむきの嬰聖五月
掛軸を山水に替へ夏に入る
民宿の自慢は飛魚のだし料理

建部三由紀
日比生利子
松岡 薫枝
小川 雪
長副美恵子
迫田 昌子
今井三千代
仲谷ひろえ
稲村 千代
花石かほる

方城句会

池田一步選

短夜の母を看取りの影一つ
庭中におおり広げて花蜜柑
母の日に宅急便の夏帽子
退屈を知らぬ暮しや茄子植うる
袋角折られし山羊の眼の怯え
散水の先に小さき虹生まれ
旧友の届け呉れたる新茶かな
昼の月歩みゆつくり若葉風
子供の日古都より小鳩菓子届く
新緑にまぎれ込みたる峡の家

藤井歌之介
渡邊 一枝
朝部さよ子
尾崎 和子
木村 誠一
倉石嘉代子
白石 凡子
杉 フジエ
長尾 冨子
野村 鈴子

写真が語る 写真館 なかの写真館
平成筑豊鉄道一番列車
撮影者●竹崎昇造さん
撮影日●平成元年10月1日
多くの鉄道ファンや報道陣らが訪れた平成筑豊鉄道開業の様子。花火が打ち上げられる中たくさんの人に見守られながら、記念すべき一番列車が伊田方面へ出発しています。
昔の写真を探しています！
岡 総務課広報・広聴係
☎22-7766

ともしび短歌会短歌詠草
茄子植えてピーマン植えて次はなに菜園づくりは夫のリフレッシュ
五月雨に薄くれないの京鹿子花穂ふるわせ夢見るように
五月雨のやみしあい間の洗濯はあれもこれもと欲張りすぎず
黄上野の半筒茶碗みつもりどこかやさしき友人の作
弓道場創設五年の祝射会老若競ひて弓ひきしぼる
三村 和子
加治 智子
越智 早苗
辻田 幸也
福田 昌